

国際的な学術情報の発信 - SPARC/JAPANについて

土屋俊(千葉大学)

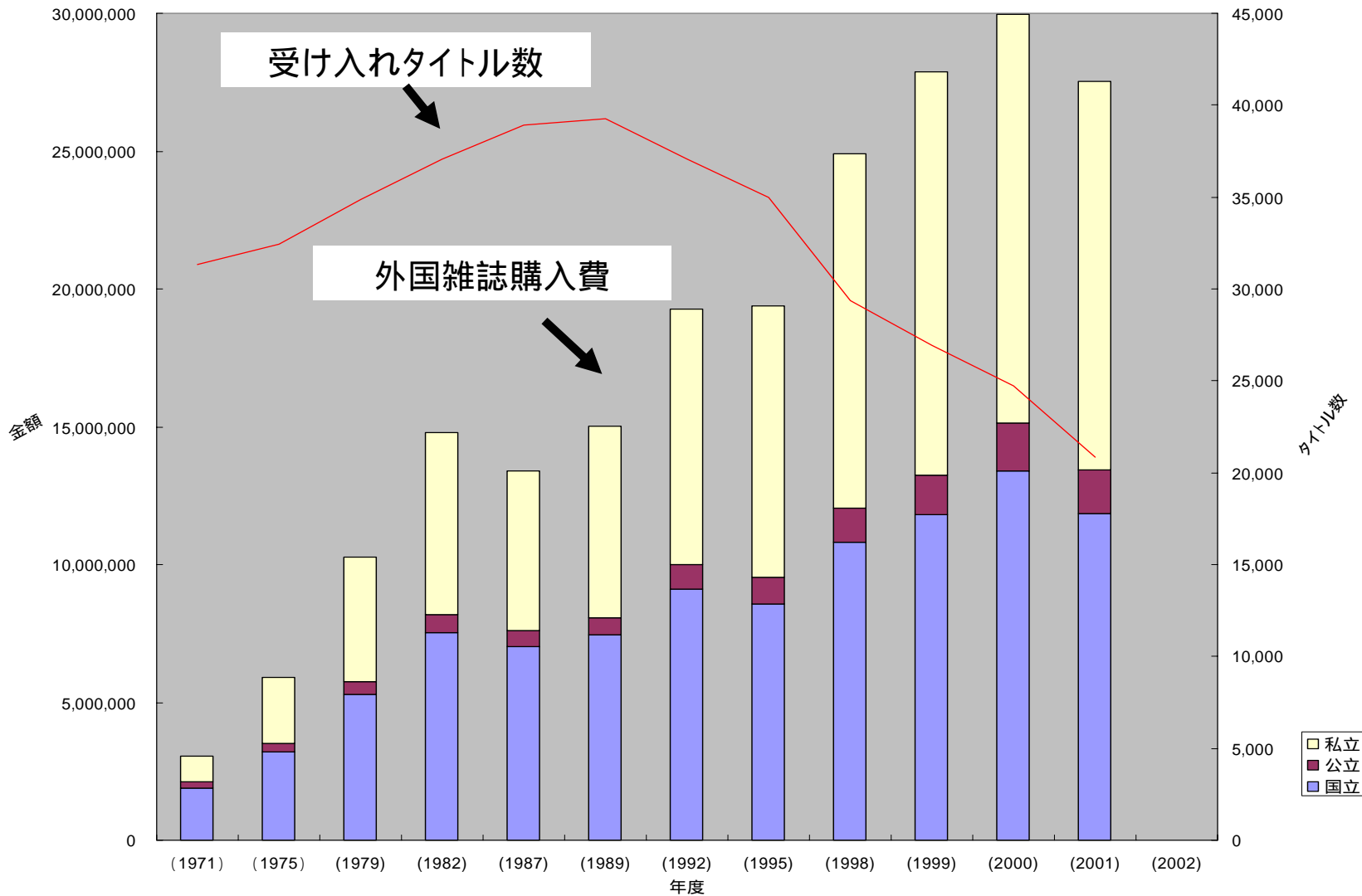
SPARCとは何か？

- Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition
 - 1998
 - Association of Research Libraries (ARL)
図書館団体による学術情報流通変革活動
- いくつかのキーワード
 - 前提：“Serials Crisis”（「雑誌の危機」）
 - 基本的理念：Returning science to scientists（科学を科学者へ返す）
Community controlled science journals（科学者共同体が制御する科学雑誌）
 - 最近の話題：Institutional repository（機関レポジトリ）
Open access（オープン・アクセス）

単位:千円

日本国内図書館の外国雑誌購入費および受け入れタイトル数

但し1982年度までは和雑誌も含む



- 学術雑誌価格の高騰(“Serials Crisis”1980年代から)
 - (世界的に) 論文量の増加(タイトル2倍、タイトル当論文数1.6倍)
 - (世界的に) 商業出版社の寡占化と市場(価格)制御
 - (日本の場合) (外国為替の要素はあるが)これまで学会も図書館(大学)もほとんど無力(補助金依存・代理店依存)
 - (日本の場合)外国出版社による国内学会の「買収」
- 電子ジャーナル状況の展開
 - (世界的に)1998年くらいから本格化
 - しかし、高騰は止められない、アーカイブの不安、“Big Deal”論争
 - (日本の場合)遅れたが一応の対応
 - 国立大学コンソーシアム、文部科学省予算化(国立・私立)

- 短期的な経済効果と長期的な解決
 - 価格の上昇率に歯止めをかける
 - 学術出版における寡占を抑止し、競争を生じさせ、価格を抑制
 - 非営利部門の影響力をの拡大
 - 学術情報流通の構造を変化させる触媒となる
- そのために、学者と図書館へ情報提供
 - 価格決定のメカニズムを公然のものとする
 - 問題 / 解決サイクルの検証
 - 学者・研究者への働きかけ

目的: 新規参入者を支援

会員の会費による支援と会員館による購読意思表示: リスク軽減



Journal of
Insect Science

www.insectscience.org



www.BioOne.org

大学企画

- アリゾナ大学: *J. Insect Science*
- ビールフェルド大学: *Documenta Mathematica*
- カリフォルニア大学: *eScholarship*
- コロンビア大学: *Earthscape*
- コーネル大学/デュークプレス: *Project Euclid*
- ワーウィック大学: *Geometry & Topology Publications*

独立企画

- *Evolutionary Ecology Research*
- *Internet Journal of Chemistry*

混成タイプ

- *BioOne*

2000 ISI 学術誌引用報告

“Organic Chemistry”
(100件以上の記事を発表する学術誌)

順位	学術誌	影響力
1	<i>J. Organic Chemistry</i> (ACS)	
2	<i>Organic Letters</i> (ACS)	3.367
		
14	<i>Tetrahedron Letters</i>	2.558

2000年 9月	電子ジャーナルタスクフォース設立 出版社との直接交渉を原則
2001年 8月 (9/11直前)	米国SPARCからの呼びかけ 国際学術コミュニケーションへの取り組み
2001年10月	理事会でSPARC紹介、原則賛成
2002年 3月	文部科学省情報科学技術委員会「根岸ワーキンググループ」(2001年7月から)における 検討、報告書への反映 日本の学会誌の状況について (図書館として)初めて認識

「学術情報の流通基盤の充実について(審議のまとめ)」

科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会情報科学技術委員会
デジタル研究情報基盤ワーキング・グループ(平成14年3月12日)

(文部科学省ホーム > 審議会情報 > 科学技術・学術審議会 > 研究計画・評価分科会 > [答申])

学術情報の円滑な流通を図るための当面の具体的方策

- (1) 電子ジャーナル等の体系的な収集
国立大学予算、私立大学助成
- (2) 大学等からの学術情報発信機能の強化
機関レポジトリ、学会レポジトリ(NII, SPARC)
- (3) 学協会からの学術情報発信機能の強化
ジャーナル電子化(NII, SPARC)
- (4) 学術情報の海外への流通を支援する仕組み
ビジネスモデル(NII, SPARC)

国際学術情報流通基盤整備事業

- 根岸レポートの(2)、(3)、(4)の実現のために2003年に発足
- 日本の学界が刊行する論文誌の健全化によって対応するという基本方針
 - 大学図書館のかかわりについては後述
- 学会側からの関与を求めて、参画学会を公募(9月)
 - 16機関21タイトルを採択(成功例実現のために資源の集中投下)
 - 編集作業オンライン化、遡及的電子化などの技術支援
 - 電子体中心のビジネスモデルの構築

SPARCの日本的展開の意義

- アメリカSPARC1998年出発に起因する問題点
 - 基本的にはPrintの発想が中心
 - Haank体制化以前のElsevierをターゲット
 - 電子ジャーナルビジネスに無知
- 日本の場合には、電子ジャーナル化とSPARC化がセット
 - 電子ジャーナル導入体制が2001年以降に展開
 - 図書館側にノウハウが蓄積
 - 価格モデル、契約事項、トラブルについて知識を蓄積
 - ポータル機能(ナビゲーション)の重要性の認識
 - アーカイブ機能の重要性の認識(NDLもよろしく)

大学図書館はこれから何をしようとしているか？

A. 学術出版の状況に関する情報共有の推進

- SPARCの目的は、「研究者自身による研究情報流通のコントロール」
 - 商業出版社を中心とする体制は、それを不可能にし、それによって大学の研究機能に危機をもたらしている
 - 図書館はその最前面に立ち、状況を認識している(外国出版社との付き合いもある)
 - この危機的状況をキャンパス内で教員・研究者と共有し、協力して大学の研究機能を維持するために努力したい
 - (予約購読であれ、論文投稿であれ)研究者が意思決定しないといけないのだから、この状況を理解いただくための努力がまず最初
- パンフレット、ワークショップ、講演会、ウェブページを活用した情報共有推進活動**

5. 大学図書館はこれから何をしようとしているか？

B. 学術出版の状況を改善しようとする学会等への協力

- 日本発の電子ジャーナル出版者とのコンソーシアム交渉・購読契約
- 共同で研究(たとえば、Open AccessやBioMed Central方式等について)
- 国際連携における信用保証(SPARCは図書館のイニシャティブ、ICOLCへの紹介など)

C. 大学からの情報発信の推進

- 機関レポジトリの創設(大学における(特許以外の)知財管理への取り組み、出版契約におけるNon-exclusive licensingの推進等。Cf. DSpace, FEDORA, CDL等)
- サブジェクトポータル共同構築 (NIIとの連携を含め)